

IWAKI IR Report

株主の皆様へ 第81期 中間報告書

2019年12月1日 ▶ 2020年5月31日

Contents

- P 1 ごあいさつ
代表取締役社長
岩城 慶太郎
営業概況のご報告
- P 3 グループ会社紹介
- P 5 セグメント別の概況
- P 7 上半期連結財務ハイライト
- P 8 四半期連結財務諸表 (要旨)
- P 9 株主様インフォメーション
- 裏表紙 会社概要 / 株式情報



イワキ 株式会社

証券コード：8095



イワキ株式会社
代表取締役社長

岩城 慶太郎

新型コロナウイルス感染症により、亡くなられた方々に謹んでお悔み申し上げますとともに、罹患された方々の一日も早い回復をお祈りいたします。また医療従事者の皆様をはじめ、感染症対応にご尽力いただいている方々に心より感謝申し上げます。

ここに、当社第81期第2四半期累計期間(2019年12月1日から2020年5月31日まで)における営業状況をご報告し、通期業績の見通しと株主の皆様への利益還元についてご説明させていただきます。

2020年8月

営業概況のご報告

第2四半期までの営業状況

市場環境へのコロナ禍の影響を受け 期初の想定より厳しい営業状況に

我が国の経済情勢は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、急速な悪化を示しています。当社グループ事業の各市場にもその影響が表れ、第2四半期までの営業状況は、期初の想定よりも厳しい状況となりました。

事業セグメント別に振り返ると、ファインケミカル事業は、ジェネリック原薬・新薬用中間体に注力した医薬品原料の製造販売が堅調に推移したことや、当第2四半期より連結子会社となったスペラファーマ株式会社の貢献により、感染症の影響を軽微に抑えることができました。しかし電子・機能性材料は需要が大幅減少となり、売上高は前年同期を大きく上回りましたが、利益は減少しました。

医薬事業は、医療用医薬品が販売を伸ばし、一般用医薬品も感染症対策の需要拡大を受け、うがい薬などの売上が増加しましたが、美容クリニック向け化粧品は、感染症の影響による受診の減少に伴い、低調に推移しました。結果として当事業の業績は、増収・減益となりました。

HBC・食品事業は、インバウンドの落ち込みと感染症の影響を大きく受け、化粧品原料及び通販化粧品の需要が減少し、一般用医薬品などの卸売にもインバウンドの縮小が響きました。食品原料は「巣ごもり需要」を取り込みながらも低調に推移しました。そのため当事業の売上高は、前年同期を下回り、営業損失を計上する結果となりました。

化学品事業は、韓国向け銅めっき添加剤や台湾・中国・欧州向けシード層エッチング剤など表面処理薬品の販売が堅調に推移し、表面処理設備も原価低減活動による利益改善が進んだことから、増収・大幅増益となりました。

以上により上半期の連結業績は、売上高308億3千2百万円(前年同期比0.7%減)、営業利益8億7千8百万円(同31.3%減)、経常利益8億9千5百万円(同32.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益5億9千2百万円(同33.5%減)となりました。

次の成長を目指す新たな展開

中期経営計画の目標達成に向けて 「策揃え」の深化を加速

現在推進中の3カ年中期経営計画は、2022年11月期の連結業績における「売上高750億円」「営業利益32億円」「ROIC 8.5%以上」を目標に掲げています。その達成に向けて当社グループは、既存事業をベースとするオーガニック成長に加え、事業投資やM&Aを含む新領域・新規事業などのインオーガニック成長による売上拡大を目指します。

この上半期は、前田薬品工業株式会社に資本参加したほか、CMC研究受託を手掛けるスペラファーマ株式会社の株式取得・完全子会社化を実施し、さらに同社を通じて創薬ベンチャーのジェイファーマ株式会社への出資を行いました。また、鳥居薬品株式会社からの工場譲受に

伴う新会社の株式取得について契約を締結し、7月1日付でこれを実施しました。下期においても、引き続き医薬品関連ビジネスの強化に向けた動きを進めていきます。

通期業績予想と配当について

中間配当は1株当たり7円を実施 今後持株会社体制への移行を予定

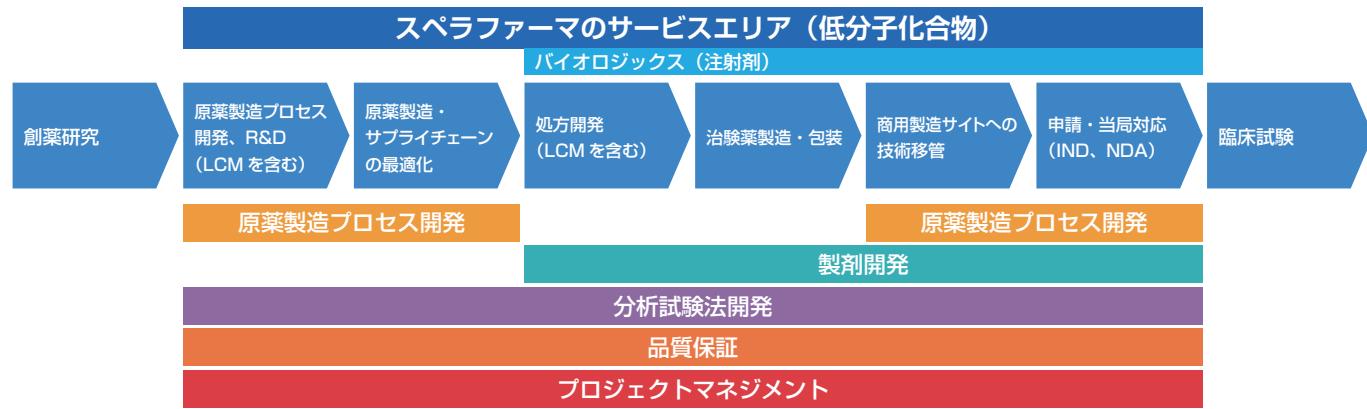
新型コロナウイルス感染症は、今のところ終息に向かう見通しが立たず、予断を許さない状況にあるものの、当社グループの事業環境における影響は、期末にかけて徐々に縮小していくと見えています。これを前提に通期の連結業績予想については、期初の予想数値を変更せず、売上高640億円(前期比3.8%増)、営業利益22億円(同3.7%増)、経常利益24億円(同3.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益17億円(同10.9%増)を見込んでいます。

なお今回の中間配当は、利益還元の拡充を目指す方針のもと、予定通り1株当たり7円を実施しました。期末配当は引き続き同7円を予定しており、年間配当額は合わせて同14円(前年比1円増配)となる見通しです。

私たちは今後、さらなる企業価値の拡大に向けて、より機動的なグループ経営を図るべく、2021年6月1日を目処に持株会社体制への移行を予定しています。株主の皆様におかれましては、これからも長きにわたり当社グループへのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当社グループは、これまでの自社製造ありきの考え方から、「研究開発型」のビジネスモデルの転換を掲げ、さらなる事業の拡大に向け、2020年3月にスペラファーマ株式会社の全株式を取得いたしました。今回は新たに当社グループに加わったスペラファーマについてご紹介します。

CMC研究のエキスパートが卓越した技術と情熱で、
優れた医薬品・画期的な医薬品の創出をサポートします。



原薬

製剤

分析

長年培った技術・ノウハウを基に「ゼロ」から原薬製造法を開発

世界トップレベルの医薬品開発技術と確かな品質で、“グローバル申請の要件を満たす「ゼロ」からの原薬製造法の開発”と“前臨床から販売承認取得まで、シームレスで一貫性のある原薬の製造プロセス・品質設計”を提供します。

国内最大手製薬企業における技術・経験を深化させ高付加価値なサービスを提供

国内最大手製薬企業での研究開発で培った技術と経験に基づく付加価値(迅速、コスト、差別化、製剤の新規性)の高い製剤設計、開発ステージに合わせた製剤開発と高品質でコスト競争力のある製剤供給、生産スケールまでのスケールアップを意識した頑健で費用対効果に優れた製造プロセスの開発、承認許可申請資料(CTD Module3)の作成などを行います。

対象物質の特性や開発ステージに応じた試験法の開発や品質管理戦略を提案

原薬から製剤まで開発の全てのステージに関わる分析・試験技術の提供及び治験・製造承認に必要な技術資料(IND, NDAのCTD Module3等)の作成が可能です。高度な分析理論、機器分析に加え、日米欧の局方、規制の深い理解に基づくきめ細かなサービスを提供します。

■ Q1. スペラファーマの企業理念やビジョンについてお聞かせください。

A1. スペラファーマの企業理念は、「医薬品のCMC^(※)研究開発に新たな展開をもたらす、優れた「くすりづくり」を通じてより健康な社会の実現に貢献します。」としています。私たちは「優れた研究開発技術力」「活力ある企業文化」を追求し、「お客様のくすりづくり」に対して最良で最速のソリューションを高い倫理観を持って提供するリーディングカンパニーを目指しています。お客様の技術ニーズや開発スケジュールに誠実にお応えするために、常に世界最高レベルのCMC研究開発に挑戦し続けます。また、従業員一人一人を思い、働き甲斐のある環境を提供し、活力ある企業文化を醸成したいと考えています。

(※)CMC: Chemistry, Manufacturing and Controlの略称。医薬品の原薬製造研究、製剤化研究、原薬・製剤の品質評価研究の3つが連携を取りながら、くすりづくりを実現します。非臨床試験から厚生労働省の承認取得に至るまで、幅広い領域をカバーしております。



スペラファーマ株式会社
代表取締役社長
吉岡 敏夫

■ Q2. 事業内容や強みについて教えてください。

A2. スペラファーマは、武田薬品でCMC業務に長年従事し、新薬の研究開発、既存薬をより有効活用するための改良、及び工業化のステージにおいて多くの経験を積んだプロセスケミストや製剤、分析関連の技術者を含む約250名のメンバーが、武田薬品をはじめとする製薬企業やベンチャー、大学の皆様のCMC研究開発をサポートするパートナー企業として医薬品の受託研究開発を行っています。具体的には、医薬品開発の初期段階から承認申請・上市に至るまでのあらゆるCMC業務をOne Stopで外部提供できる国内唯一のCDMO(医薬品受託研究開発・製造専門会社)として、技術面のみならず研究開発の戦略面においてもお客様のあらゆるニーズにお応えしてまいります。

■ Q3. イワキグループに加わった背景と、今後協働で取り組んでいくことについてご説明ください。

A3. イワキグループのファインケミカル事業部及び医薬事業部では、医薬原料の製造・流通及び医薬製品の製造・流通機能を生かしつつ、「研究開発型」ビジネスモデルへの転換による事業の拡大及び成長を目指しています。スペラファーマは日本国内で唯一の統合型CMC研究開発受託企業であり、イワキグループにCMC事業が新たに加わることにより、「策揃え」企業としての地位の確立が可能となります。スペラファーマは、イワキグループに「CMC研究開発受託」という新しい「策」をもたらすと同時に、イワキグループの広範なバリューチェーンにおけるビジネスとのシナジー効果を創出し、既存サービスの向上や新しい価値の創出にも努めてまいります。

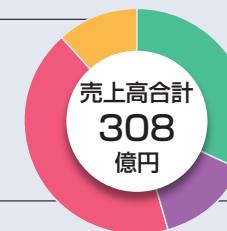
セグメント別の概況

お取引先様の課題解決に向けた様々なニーズに当社グループのあらゆる機能で応える「策揃え」を実現し、変革スピードを向上させるため、プロダクト毎のバリューチェーンに従ってファインケミカル事業、医薬事業、HBC (Health & Beauty Care)・食品事業、化学品事業の4つの事業を展開しています。

売上高構成比 (第81期上半期)

化学品事業 11.5%

HBC・食品事業 42.7%



ファインケミカル事業 32.0%

医薬事業 13.8%

ファインケミカル事業

イワキ株式会社 岩城製薬株式会社 スペラファーマ

● 事業内容

医薬品原料の製造から販売までを行っています。

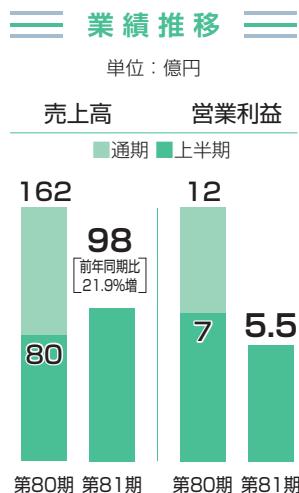


● 当期のポイント

医薬品原料の製造販売は、全般が堅調に推移。

CDMO分野は、生産高・受注高共に堅調に推移し、新型コロナウイルス感染症の影響を軽微に抑制。

電子・機能性材料は需要の大幅減少等により、厳しい状況で推移。



医薬事業

イワキ株式会社 岩城製薬株式会社

● 事業内容

医薬品の製造から販売までを行っています。また、創業支援サービスなどのバイオ関連事業や医療機器の販売を行っています。

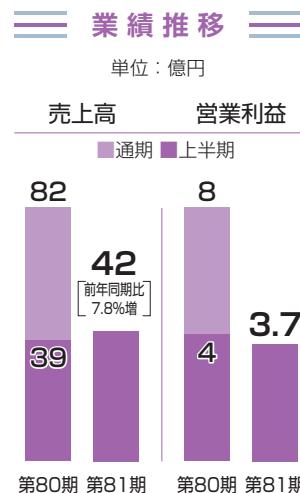


● 当期のポイント

医療用医薬品では、主力の副腎皮質ホルモン剤などの外用剤や男性型脱毛治療薬、消毒剤の販売が伸長。

一般用医薬品では、ビタミンC末・錠、新型コロナウイルス感染症対策向けうがい薬や提携外用新製品の売上が伸長。

美容クリニック向け化粧品は受診の減少に伴い売上が低調に推移。



HBC・食品事業

※HBC=Health&Beauty Care

イワキ株式会社 APROS ポーエン化成株式会社

● 事業内容

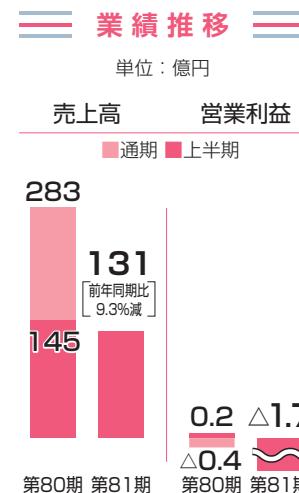
一般用医薬品、機能性食品原料・化粧品原料の販売、化粧品の通信販売及びOEMなどを行っています。



● 当期のポイント

一般用医薬品を主体とした卸売分野では、衛生材料・消毒剤は好調に推移したものの、インバウンドの落ち込みをカバーするには至らず、営業利益は厳しい状況で推移。

食品原料分野は、「巣ごもり需要」の取り込み、機能性食品原料での新規獲得があったものの、低調に推移。

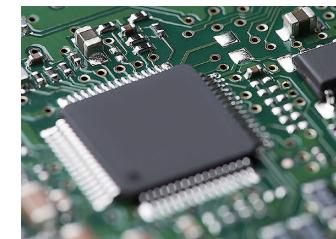


化学品事業

Meltex

● 事業内容

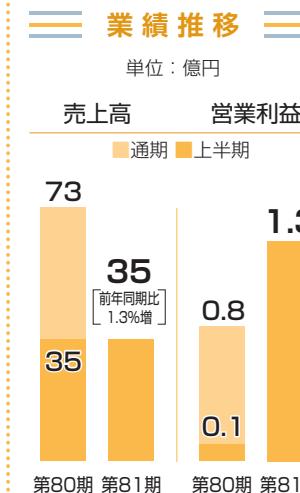
表面処理薬品の製造・販売、化学品原料などの販売を行っています。



● 当期のポイント

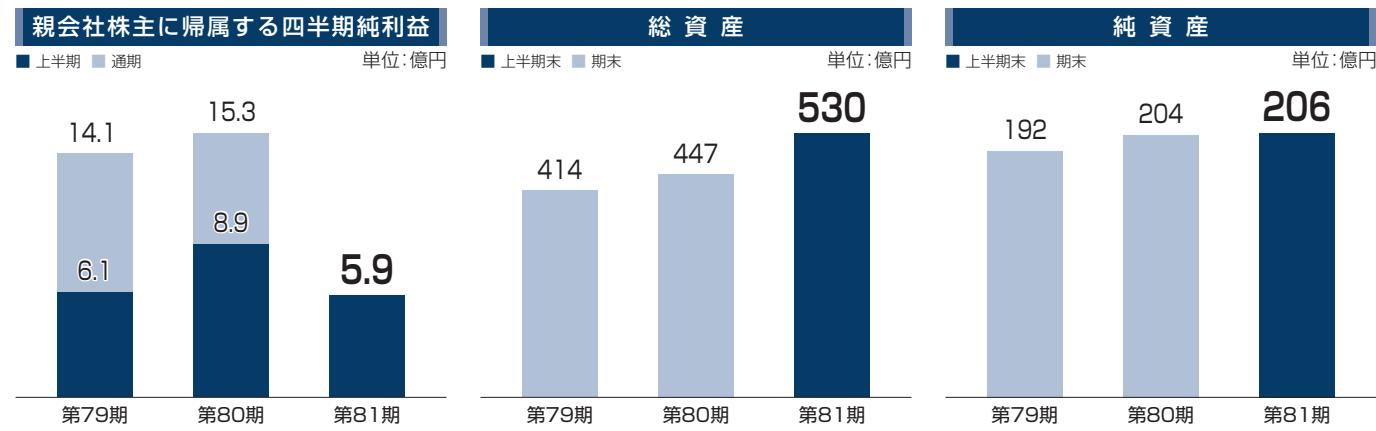
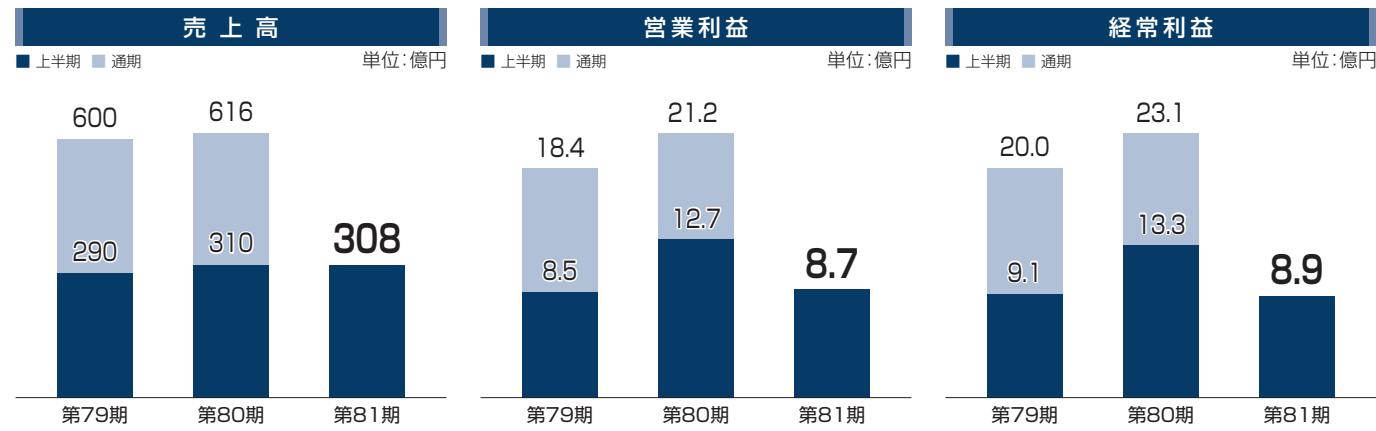
新型コロナウイルス感染症拡大により営業活動への大きな影響があったものの、表面処理薬品分野では、韓国向け銅めっき添加剤及び台湾・中国・欧州向けはシード層エッチング剤の販売が堅調に推移。

表面処理設備分野では、売上原価低減活動等による利益改善が進み、好調に推移。



上半期連結財務ハイライト

売上高	第80期上半期 310億円	→	第81期上半期 308億円
営業利益	12.7億円	→	8.7億円
経常利益	13.3億円	→	8.9億円
親会社株主に帰属する四半期純利益	8.9億円	→	5.9億円



四半期連結財務諸表 (要旨)

連結貸借対照表

(単位: 百万円)

科目	第81期 第2四半期 2020.5.31現在	第80期 2019.11.30現在
資産の部		
流動資産	32,432	30,376
固定資産	20,591	14,338
有形固定資産	8,319	7,934
無形固定資産	6,976	1,462
投資その他の資産	5,295	4,941
資産合計	53,024	44,715
負債の部		
流動負債	22,774	20,841
固定負債	9,596	3,441
負債合計	32,370	24,283
純資産の部		
株主資本	19,306	18,866
資本金	2,687	2,663
資本剰余金	4,332	4,308
利益剰余金	12,787	12,431
自己株式	△501	△537
その他の包括利益累計額	1,339	1,556
その他有価証券評価差額金	1,241	1,414
繰延ヘッジ損益	2	3
為替換算調整勘定	46	84
退職給付に係る調整累計額	49	54
非支配株主持分	7	8
純資産合計	20,653	20,431
負債純資産合計	53,024	44,715

連結損益計算書

(単位: 百万円)

科目	第81期 第2四半期累計期間 2019.12.1~2020.5.31	第80期 第2四半期累計期間 2018.12.1~2019.5.31
売上高	30,832	31,054
売上原価	24,002	24,305
売上総利益	6,829	6,748
販売費及び一般管理費	5,951	5,470
営業利益	878	1,278
営業外収益	125	122
営業外費用	107	67
経常利益	895	1,333
特別利益	18	1
特別損失	1	12
税金等調整前四半期純利益	912	1,321
法人税、住民税及び事業税	375	421
法人税等調整額	△55	2
法人税等合計	319	423
四半期純利益	592	897
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	6
親会社株主に帰属する四半期純利益	592	891

連結キャッシュ・フロー計算書

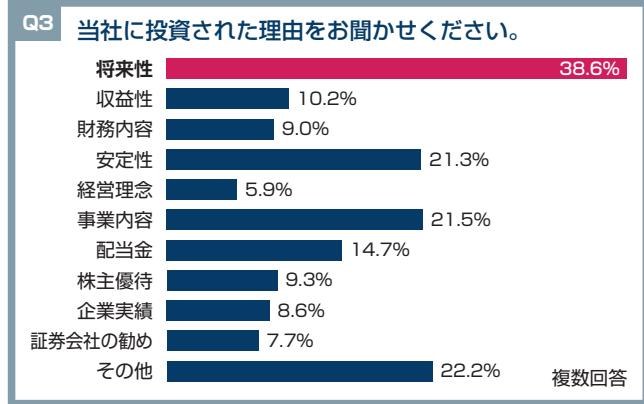
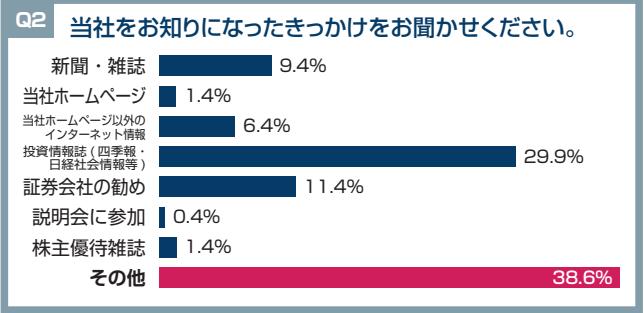
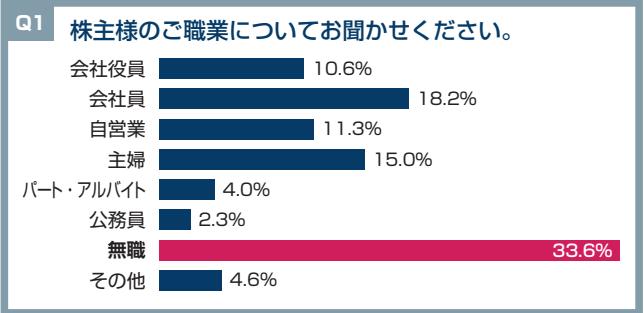
(単位: 百万円)

	第81期 第2四半期累計期間 2019.12.1~2020.5.31	第80期 第2四半期累計期間 2018.12.1~2019.5.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	△491	568
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,739	△562
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,718	△93
現金及び現金同等物に係る換算差額	△30	△24
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,457	△112
現金及び現金同等物の期首残高	4,795	4,540
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,253	4,428

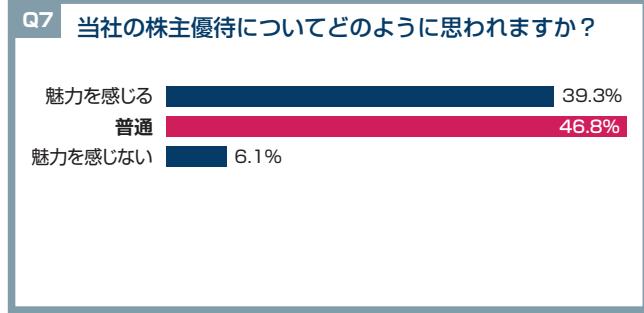
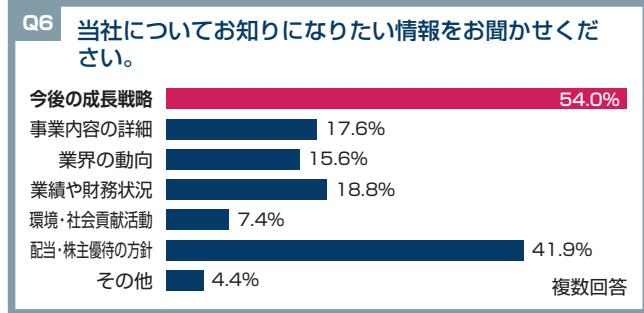
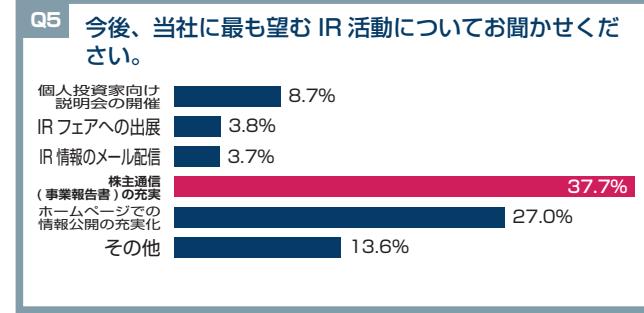
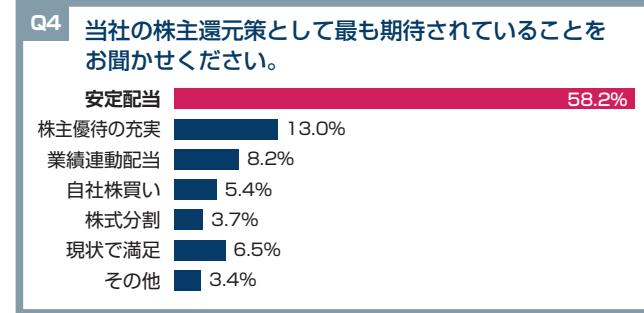
アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。
その結果概要につきまして、ご報告させていただきます。
(集計対象期間：2020年2月26日～2020年5月8日)

株主様アンケート回答者
回答者数 **2,077**名 (回収率=89.7%)

第9回株主様アンケート 集計結果のご報告



2019年11月期の株主優待通知書にてお願いいたしましたアンケートに、大変多くの株主様より回答をお寄せいただきました。
株主様の当社への期待を真摯に受け止めるとともに、いただいた貴重なご意見、ご要望を今後の経営とIR活動に活かしていきたいと考えております。今後とも引き続きよろしくお願いいたします。 IR担当スタッフ一同



株主優待制度のご案内

株主の皆様に対し、日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、より多くの方々に中長期的にわたり継続して当社株式を保有していただくことを目的に、2019年11月期より株主優待制度を導入いたしました。

◆ 株主優待の内容
毎年11月30日現在の株主名簿に記載された100株以上かつ1年以上保有の株主様は、保有株式数と保有年数に応じて優待品をご選択いただけます。

保有年数	保有株式数	
	100株～999株	1,000株以上
1年以上 3年未満	Aコース 3,000円相当の自社商品 または 1,000円相当の商品・寄付	Bコース 5,000円相当の自社商品 または 2,000円相当の商品・寄付
	Bコース 5,000円相当の自社商品 または 2,000円相当の商品・寄付	Cコース 10,000円相当の自社商品 または 3,000円相当の商品・寄付

2019年11月期の株主優待カタログイメージ



株主優待寄付金のお知らせ

本年度は、寄付を選択されました94名の株主様から、総額241,000円の優待品相当額の寄付金をお預かりし、下記のとおり寄付させていただきました。

寄付名義：イワキ株式会社
実施日：2020年6月22日
寄付先：日本赤十字社 東京都支部 241,000円

多くの株主様より温かいご芳志を賜り、心より御礼を申し上げます。

会社概要 (2020年5月31日現在)

会社概要

社名	イワキ株式会社	
本社所在地	東京都中央区日本橋本町四丁目8番2号	
創業	1914年(大正3年)7月10日	
設立	1941年(昭和16年)9月20日	
資本金	26億8千7百万円(東証1部上場)	
社員数	(単体) 321名 (連結) 1,220名	
主な事業内容	ファインケミカル事業	医薬事業
	HBC・食品事業	化学品事業
主な事業所所在地	・大阪支社 大阪府大阪市 ・富山支店 富山県富山市 ・名古屋支店 愛知県名古屋市 ・福岡支店 福岡県福岡市	
主要取引銀行	みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行	

取締役および監査役

代表取締役会長	岩城 修	社外取締役	越智 大藏
代表取締役社長	岩城 慶太郎	社外取締役	川野 毅
常務取締役	大森 伸二	社外取締役	二之宮 義泰
取締役	畑澤 克彦	常勤監査役	山口 誠
取締役	熱海 正昭	常勤監査役	磯部 俊光
取締役	瀬戸口 智	監査役	安永 雅俊
取締役	古橋 勝美	監査役	秋山 卓司
取締役	西久保 吉行		

株主メモ

事業年度	毎年12月1日～翌年11月30日
期末配当金受領株主確定日	毎年11月30日
中間配当金受領株主確定日	毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話：0120-782-031 (フリーダイヤル)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う。 公告掲載URL https://www.iwaki-kk.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

- (ご注意) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式情報 (2020年5月31日現在)

株式の状況

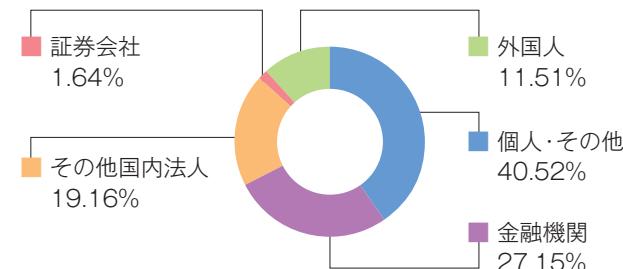
発行可能株式総数	136,000,000株
発行済株式の総数(自己株式909,645株を含む)	34,729,839株
株主数	14,097名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,251	6.65
株式会社ケーアイ社	2,051	6.06
株式会社CNV社	1,720	5.08
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,409	4.16
株式会社三菱UFJ銀行	1,188	3.51
岩城修	970	2.86
イワキ従業員持株会	929	2.74
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	730	2.16
株式会社大阪ソーダ	658	1.94
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(役員報酬BIP信託口・76082口)	636	1.88

(注) 持株比率は自己株式(909,645株)を控除して計算しております。

株式分布状況(所有者別分布状況)



(注) 小数点第2位まで記載(第3位以下は切り捨て)しております。
持株比率は自己株式(909,645株)を控除して計算しております。

イワキのホームページでは、様々な企業情報やIR情報をお届けしています。どうぞお気軽にアクセス、ご利用ください!
皆様方からのアクセスをお待ちしております!

<https://www.iwaki-kk.co.jp/>



イワキ株式会社

〒103-8403
東京都中央区日本橋本町四丁目8番2号
電話：03-3279-0481



環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。